研究の概要

Ⅰ．研究の目的

知的障害のある子どもの担任教師は，指導の最適化を図るために多様な情報，多様なアイデアを収集し実際の指導に生かすことが望まれる。

個別の指導計画の作成のためには，担任教師と他の関係者等が協力して，実態把握による情報や指導によって得られた実践的情報を整理・統合し，指導内容・方法等を共に考え，深めていくための会議システムの検討が必要である。

本研究では，担任教師と他の関係者等が協力していくための具体的な方法等を明らかにすることを目的とする。

一年目は，課題解決型のグループワーク，ワークショップの方法論に関する先行研究の調査，アメリカ等の個別教育計画・我が国の個別の指導計画の作成において使用されているグループワークの方法論の分析及びグループワーク，ワークショップの方法論を応用した個別の指導計画の作成のシミュレーションを実施する。二年目は，開発したプログラムを研究協力校において実施し検討する。

Ⅱ．研究の内容

1．課題解決型のグループワーク，ワークショップの方法論に関する先行研究の調査
　アメリカ等の個別教育計画・我が国の個別の指導計画の作成において使用されているグループワークの方法論の分析をする。
2．グループワーク，ワークショップの方法論を応用した個別の指導計画の作成のシミュレーションの実施
3．開発したプログラムを研究協力校において実施し検討する。

Ⅲ．研究体制

1．所内研究分担者

小塩　允護（知的障害教育研究部長）
　　研究の総括平成14，15年度
竹林地　毅（重度知的障害教育研究室長）
　　研究の記録と分析　平成14，15年度
肥後　祥治（重度知的障害教育研究室主任研究官）
　　研究の記録と分析　平成14年度
齊藤　宇開（重度知的障害教育研究室研究員）
　　研究の記録と分析　平成14，15年度

2．研究協力者

平成14年度
岸本　啓吉（東京都立港養護学校・校長）
　　学校教育関係者の立場からの助言

平成15年度
坂本　悟郎（東京都立港養護学校・校長）
　　学校教育関係者の立場からの助言
肥後　祥治（熊本大学・助教授）
　　ワークショップの方法論の研究の立場からの助言

平成14，15年度
干川　　隆（熊本大学・助教授）
　　ワークショップの方法論の研究の立場からの助言
矢野　勝義（東京都立港養護学校・教諭）
　　学校教育関係者の立場からの助言
鈴木　裕子（神奈川県立茅ヶ崎養護学校・教諭）
　　学校教育関係者の立場からの助言
奥　　政治（国立久里浜養護学校・教諭）
　　学校教育関係者の立場からの助言
萬歳芙美子（神奈川県小児療育相談センター・ソーシャルワーカー）
　　教師が支援を求める専門家の立場からの助言
谷崎　秀昭（横浜市養護教育総合センター・主任指導主事）
　　教師の研修の立場からの助言
山口　秀子（神奈川県立総合教育センター・指導主事）
　　教師の研修の立場からの助言

3．研究協力機関

東京都立港養護学校
神奈川県立茅ヶ崎養護学校
国立久里浜養護学校